

学校が春休みのある日、市内を所々立ち寄りながら40分ほど車に乗っていた時のことです。天気の良い日中だというのに、外で遊んでいる子どもを全く見かけなかったのです。「子どもたちは今、どこで何をしているのだろう」と思ったことでした。

そう言えば、放課後や休みの日に、こんな光景を目にしました。数人の子どもたちが屋外に集まって遊んでいるのですが、それぞれの手にはゲーム機があり、友達と全く関わることなく遊んでいます。子どもたちの遊びの一コマを見ただけなので、その前後のことは分かりません。しかし、少なくとも友達と一緒に遊ぶ時にゲーム機を持って出掛けており、昔と比べて遊び方が変わってきていると感じたことでした。

私たちが子どもの頃は、自然が遊び場でした。自然を相手に遊ぶ中で、友達同士でいろいろと知恵を出して工夫しました。ときには、ちよつとスリルのあることに挑戦したりもしました。ささ舟を作って流し合いこをしたり、両端から追い込みながらメダカやオタマシヤクシを捕まえたりして遊んだものでした。友達と一緒に遊ぶ中で、友達の良さを知ったり、けんかを

「遊びを通して」

してどうやって仲直りしようとか考えたこともありました。異年齢で遊ぶ時、「あの上級生のように自分もできるようにになりたいな」と思ったり、下の子には知っていることを教えたり、ちよつと優しくしたりと、人間が生きていくために大切なことを、遊びを通していつのまにか体得していくのだと思います。

人は社会的な生き物です。人と人との関係の中で成長し、社会性を獲得していくのです。そして、小さな子どもの中から遊びを通していろいろなることを学び、成長していくのだと思います。

子ども時代に、外でたくさん遊び、私たちが自然の中で味わった驚きや感動、発見を今の子どもたちに体験してもらいたいです。

*このシリーズは、あなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

お問い合わせは

人権啓発広報委員会

(880・6569) まで